

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192100176		
法人名	野原電研株式会社		
事業所名	グループホーム・ハッピー桜		
所在地	岐阜県大垣市外洲2丁目81番地		
自己評価作成日	平成28年3月3日	評価結果市町村受理日	平成28年5月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2192100176-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会		
所在地	〒503-0864 岐阜県大垣市南類町5丁目22-1 モナーク安井307		
訪問調査日	平成28年3月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

のどかな田園地帯にあります。近くには高齢者福祉施設や、保育園、学校、また、大型ショッピングセンターもあります。豊かな環境の中、近隣の方達との交流を大切に、日常生活に工夫をしています。ご利用者にまだまだお持ちの力を発掘して頂いております、学習療法、また、気分転換に月に1度ほど外出レクなど取り入れています。3つの安心(安心な介護、安全な介護、安心な職場)を法人の理念に掲げており、ご利用者お1人お1人にあった介護支援に勤めています。広いデッキがあり、ご利用者と洗濯を干したり、園芸をしたり、日光浴も日常の光景になっております。建物は、丈夫な鉄筋エクリート製になっており防火設備は充分です。非常食の備蓄もあり、広域での非常事態には、施設への受け入れも視野に入っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ハッピー桜は開設して5年になる事業所で、利用者本意の支援をすること、そして地域の中でその人らしく暮らし続けてもらうことが大切であると考えている。重度化に伴いこの1年間に7名の看取りを実施している。隣接する協力医や看護師の24時間対応により医療機関との連携が取り易く、人生の終末を迎える本人そして寄り添う家族にとって、看取りをホームに任せられるほど、そこには信頼関係と絆がある。さらに今年度は研修にも力を入れ、新しい技術の習得を積極的に行う計画がある。スキルアップが自信となり、サービスの質の向上が日々の支援の中で活かされている。理念「3つの安心」で示される安心な介護・安全な介護・安心な職場を正に実践しているといえる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループ事務所入り口にホームの理念、事業所としての理念が掲げられている。毎朝申し送り時には職員全員で唱和をし、理念の確認を行っている。利用者は人生の先輩として敬うことを常に念頭に置いている。	この1年間に7名の看取りを実施している。入居してから終末まで、信頼と絆の中で出来る限りの支援をしてきた集大成である。理念「3つの安心」を支援に活かし、職員がその中で学び、スキルアップを図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	大垣市内の中学校や高校の体験学習を積極的に受け入れ、利用者との交流の場を設けている。近隣の保育園と定期的に交流を継続させている。氏神参拝や畑、散歩に出、地元の方達と挨拶を交わしている。	事業所は周囲に住宅がなく地域住民との交流が難しい状況であるが、落語、民謡、舞踊、カラオケ等のボランティアが定期的に訪れている。また幼稚園、小学校、中学校、高校の受入れも多く、交流が盛んである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議の場で認知症ミニ勉強会を企画。認知症を学んで頂く機会を工夫している。推進会議以外での学習会を検討している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見交換会の場を設け、テーマにとらわれず自由に意見を述べて頂いている。本年より認知症ミニ学習会を取り入れた。来年度は地域の方を招き学習会を開催したいと思っている。	運営推進会議は、併設グループホーム柚子と一緒にしている。地域の区長の協力が得られてないが、会議の内容は議題も含め充実したものとなっており、ホームの運営に意見等が反映されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	大垣市地域密着型交流会の担当市職員が当グループホームの担当者でもあり、報告する機会がある。相談にも乗って頂け、大変助かっている。	市職員との意見交換は、常日頃の行き来や地域密着型交流会などを通して多く行っている。また地域包括支援センターの職員とも交流があり、助言や相談に乗ってもらい支援に反映させている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	転倒リスクのある利用者に対し、要因となる身体状況や、環境等を職員間で話し合い、補助具の検討や服薬の軽減で拘束を行う事なく、事故を減らす事が出来た。新規利用者が増えたが、施錠の措置を取ることなく知的レクなどの提供で落ち着いて頂くことができた。	身体拘束はしていない。職員は虐待を含めた身体拘束等の研修や、ミーティング、職員間の話し合い等で、常に学び確認している。ヒヤリハットについても、起こさないために原因究明などを協議して予防している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修や外部研修により、専門的な知識を持ち、虐待を見逃さない力を養っている。身体的虐待以外の言葉による虐待や介護放棄が行われていないか、職員の評価を行い、利用者の状態の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会があれば積極的に参加をしている。現在該当しそうな利用者はいないがキーパーソンの高齢化や家族関係が複雑化しており、知識の必要性を実感している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の相談があった場合、見学に来て頂き、ありのままを観て頂くことにしている。相談内容を十分に聞き取り、時間をかけ平易な言葉を意識し分かりやすく説明や、疑問に答えているつもりである。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族から聞いた言葉を「お客様声情報」として職員が投函をしている。誰でも閲覧できる場所に声情報が設置してある。推進会議で取り上げたり施設長会議に出席をさせて頂き、発信をしている。	1年間に7名の看取りを実施するほど、本人や家族との信頼が構築されている。それは、ホームでの日々の暮らしの様子を家族が見て満足を感じている証だと思われる。家族との面談の多さが信頼・絆を強くしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の施設長会議に出席をし、職員の声を上席者に報告している。お客様声情報を通じて上席者に直接現状が伝わっている。	管理者、ケアマネージャーが職員と面談をし、思いを聞くようにしている。また管理者は24時間何時でも連絡が取れるような体制がある。さらに今後託児所の設立を検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護福祉士受験のサポートを行い、資格取得をした際には報奨金が出る。公休には希望休を月3回組み込んだり、子育て世代や、妊娠をされた職員にはシフトの工夫をし働きやすい環境の提供に工夫をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修派遣を行い、新しい技術の習得を積極的に行っている。今年度から、より力を入れ内部の強化に力を入れている。外部研修を受けた者は内部研修の講師となり技術、知識の向上に勤めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各協議会の会員となっており、様々な研修や交流会の情報を得ている。ケアマネ交流会がある為、相談者の紹介など他事業者との関係は良好である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の面談において、否定的な言葉は使わず、同調、傾聴しながら、話しやすい雰囲気を作り、家族やご本人が思っている事をにべて頂いたり、察しさせていただいている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族のプライバシーに配慮をし、突っ込んだ質問は避けている。平易な言葉を選び、解りやすく説明をしたり答えているつもりである。相談者の家族が特別でない事を織り交ぜると安心される。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所に至った経緯をじっくり聞き出し、直接的な質問は避け、同調、傾聴をしながら支援方法を模索している。介護保険制度の説明や在宅介護が可能な事などホーム入居以外の支援についてアドバイスをさせて頂くことが多い。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者さんとのコミュニケーションを大切にしている。言葉使いには気をつけ、安心して会話を楽しくて頂けるよう時には居室で会話をしたり散歩をしながら話を伺ったりしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会者はこちらの要請ではなく、自発的に来て下さる。毎月利用情報を手紙形式で出させて頂き、友好的な関係を作っている。時にはご家族に利用者との外出を促させていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出レクは、馴染みの場所を意識している。馴染みの方が面会時、ご本人と上手く会話ができない場合は、他利用者や職員とで会話をするなど工夫をし、再度面会に来て頂けるようにしている	利用者が行きたいという希望を叶えている。また家族の面会が多く、利用者が地元にいるのを喜んでいる時は、家族が連れて行ってくれることも多い。また馴染みの友人の訪問を、職員は湯茶の接待でもてなしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の状態や、性格など考慮をし席の工夫を行っている。利用者同志の交流が見られたり、食事が全介助に近かった方が同席者の摂取状態を見られてほぼ自力摂取になった方がみえる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	死亡されてもまだホームにいる気がするといわれて訪問して下さるご家族が見える。職員に手作り品を持ってきて下さる。介護についてご相談があった場合は来ていただいたり、ご自宅に訪問させて頂くこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	口に出してうまく伝えることができない方にはは毎日の申し送り等からアセスメントシートに記入をするなどして真のニーズを引き出すよう工夫をしている。コミュニケーションを大切に、なるべく多くの声を聞き出すようにしている	センター方式のアセスメントシートを利用し、利用者や家族の思いを把握している。帰宅願望の強い利用者には家族の協力を得て面会を多くしてもらったり、一緒に過ごす時間を作るなど、支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人はもちろんだが、ご家族等ご本人をよく知る方に質問の工夫をさせて頂き過去歴や、昔話をしながらご本人の生活歴を把握するように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	知的レクや、体操などを通してご本人の有する力の把握に努め、計算問題や書き取り、塗り絵、本などを提供させていただいている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	心配事があった場合報告させていただいたり、面会時に相談させていただいている。職員と本人家族でご意向を伺いながら、今後の支援方法についてお話をさせて頂いている	職員の気付きや状態変化は、個々の介護記録や申し送りノートで職員間の情報の共有が図られている。その記録を基に介護計画の見直し、評価を実施している。	介護計画は職員と一緒に考え、モニタリングから評価の捉え方をもう一度見直し、さらに一連の流れを見易くするなど、検討されることを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	センター方式のアセスメントシートを活用しながら利用者の真のニーズを検討している。全職員が共有できるよう申し送り帳や申し送りをこまめに行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	突然の体調変化ではいち早く受診を行ったり、ご家族の慶事やご不幸に際しては、柔軟に対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の情報を広報誌や地域住民の方々から得て豊かな時間が持てるよう気にかけている。地元の祭りや近くのショッピングセンター、喫茶店を利用させていただいている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医はあるがかかりつけ医への強制はしていない。馴染みの病院で納得の治療をして頂いている。受診付添を行ない、主治医から医療の指示を受けている	かかりつけ医の診察は基本的に家族対応であるが、情報を提供して結果の報告は得ている。殆どが協力医となっており、適切な医療が受けられるよう支援体制ができています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化や不安に思っている事を医療連携ノートに記入をし、指示やアドバイスを受けている。看護師とは良好な関係の為、介護職員は安心して仕事ができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院に情報提供を行い、家族の同意を得て病状の説明を受けている。入院は家族には負担となることが多く、早期退院を望まれる。医師の指示、指導のもと、早期退院となっている。総合病院の相談室からの問い合わせが多く、関係は継続させている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の時点で看取りを希望される家族が増えてきた。本年度も4名の方の看取りを行った。主治医、家族、ホーム職員の連結が大切であることを痛感している。	隣接する協力医や看護師の24時間対応により医療との連携は取りやすく、家族も安心できる体制である。重度化に伴い終末期対応の意思確認を家族と行い、医療機関とも連携しながら看取り支援にも取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡先は事務所や各フロアに掲示している。急変時の対応については、ケアサポート部の看護師部会より指導を受けており、大変心強い		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練で、消防士の指導を受け避難訓練を行っている。非常時の対応をカンファレンスの場で確認している	消火訓練、初期通報訓練、夜間を想定した避難訓練などを行っている。次回の運営推進会議では、地域の代表者を交えAEDの使い方講習を計画している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛への配慮を指導している。無意識のうちには不適切な発言がみられた場合は注意をし啓蒙を促している。排泄時は直接的な言葉を避けトイレにお連れしている。	排泄の処理は、利用者に不快な思いをさせないよう早めの対応を行うようにしている。また、自尊心を損ねないような言葉遣いにも注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	洋服選びや外出先の決定などに利用者の声を聞くようにしている。声掛では問いかけの形に工夫をさせて頂き、ご本人の意思、希望を引き出す工夫をしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事を急かしたり、入浴を強制することは避けている。歩行が不安定で、歩行を希望されている方に杖を渡したところ、腰が伸び、以前より歩行が安定してきた		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服に拘りを持つ方がおられ変えようとされない方がおられるが、その意味を理解し、無理強いはいしない。ほめことばで笑顔になる方が多い。ご本人を尊重しつつ季節感を大切にしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きや、盛り付けなど利用者さんと共に行っている。配膳に使用したボールを洗うのも利用者さんの仕事になっている。席の工夫で自力摂取ができるようになった方が見える。	少しでも利用者との時間がとれるよう、食事は外注委託している。しかし、盛り付けや後片付けなどは、利用者と一緒にしている。年数回はおやつなど一緒に作って楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の記録を毎回取っている。水分は食事時は勿論だが起床時や食間に確保をしている。ご飯は水分がやや多めの為無理なく、摂取ができています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自立の方には声掛けをし、自立困難な方には介助をしている。自立の方も時々チェックをしブラッシングの手伝いをし、口腔内衛生には気を配っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	昼間は紙パンツを使用し、トイレで排泄をさせている。チェックシートを参考にし、定期的に声掛け、誘導を行い、パット使用を減らす工夫をしている。また、夜間帯はポータブル介助を行い、パット使用が減った方も見える。	オムツ対応の方がトイレで排泄できるようになったり、リハビリパンツになった方は失禁が少なくなったケース、また居室にポータブルトイレを設置しオムツの使用が少なくなったケースもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	立位や歩行の促しで腸の動きを少しでも良くして頂き、自然排便を工夫している。また、起床時に冷水を飲んで頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	長湯が好みの方には、急かすことは避けている。曜日に拘らず入浴日以外でも入って頂いている。拒否の方にはアセスメントをし、でその原因を探り出している。全身清拭や足湯なども行っている。	入浴は基本週2回である。入浴を拒否される方には清拭や足浴を行っている。入浴を1対1でゆったりとコミュニケーションできる機会ととらえ、個別で対応している。重度の方は併設のディで機械浴に入ることができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時、ゆったりと会話を交わしながら休んで頂いている。2時間ごとの巡視は安眠を損なわないよう、其の方に合わせて確認をさせて頂いている。日中は、その方に合わせて居室で静養して頂いている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の効果については職員は実感を持っている。普段から看護師の指導を受け、慎重に介助を行っている。利用者に変化があった場合はすぐに主治医に連絡をし指示、指導を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者から直接伺ったり、家族から情報を得たりしながら、その方にあった趣味や仕事分担を工夫している。学習療法や読書、園芸、散歩などを提供している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月外出計画を立て季節の花見や行事見学に出ている。喫茶店や外食にも出かけ、毎回楽しみにされている。また、利用者の実家まで墓参りやひ孫の宮参りに連れて行って下さる家族もある。	建物内に季節の花々が咲くバルコニーがあり、ベンチに座っていつでも自由に外気浴することができる。また利用者の思いを聞き、外出している。出来ない場合は家族にも協力してもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自身で小金を持って見える方が見える。安心されるため、あえて施設で預かることはしていない。が、殆どの方はあずからせていただいております、買い物支援時に、自ら支払いをされる方が見える		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いはがきを書いていただいている。手紙を家族あてに書かれる方もみえる。遠方のご家族から連絡があった場合は電話に出て頂くこともある		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	柔らかな照明を使用しており、明るすぎず落ち着いた空間になっている。動物や、演歌ビデオのを流しており、会話の少ない方も見入られている。皆様の日常写真や季節の作品を掲示し、季節を出している	キッチン是对面式で一緒に関わりやすく、食事の匂いが漂い生活感のある共用空間となっている。トイレは広く異臭も感じられず、居心地良く過ごせるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにはソファを置き一人になりたい方はゆったりと一人で過ごされている。ユニット間には仕切りを設けず自由に往来をしていただき、気持ちの切り替えをされる利用者も見える		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は自由に使っていただいております、ご家族が写真やぬいぐるみを持参され、面会時にはゆったりと過ごされている。「私のうちへようこそ」と面会者を居室へ案内される方も見える	スペースの違う居室があり、選択できるようになっている。テレビや家族の写真、お花が置いてある方、馴染みの布団を持ち込んでの方など、居心地よく過ごせるような工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面所やトイレがわかるようにしている。ゴミ箱は数か所に置くことで、利用者自身がごみ処理をされている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192100176		
法人名	野原電研株式会社		
事業所名	グループホーム・ハッピー桜		
所在地	岐阜県大垣市外淵2丁目81番地		
自己評価作成日	平成28年3月3日	評価結果市町村受理日	平成28年5月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2192100176-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会		
所在地	〒503-0864 岐阜県大垣市南瀬町5丁目22-1 モナーク安井307		
訪問調査日	平成28年3月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

のどかな田園地帯にあります。近くには高齢者福祉施設や、保育園、学校、また、大型ショッピングセンターもあります。豊かな環境の中、近隣の方達との交流を大切にし、日常生活に工夫をしています。ご利用者にまだまだお持ちの力を発して頂いております。学習療法、また、気分転換に月に1度ほど外出レクなど取り入れています。3つの安心(安心な介護、安全な介護、安心な職場)を法人の理念に掲げており、ご利用者お1人お1人にあつた介護支援に勤めています。広いデッキがあり、ご利用者と洗濯を干したり、園芸をしたり、日光浴も日常の光景になっております。建物は、丈夫な鉄筋工クリート製になっており防火設備は充分です。非常食の備蓄もあり、広域での非常事態には、施設への受け入れも視野に入っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループ事務所入り口にホームの理念、事業所としての理念が掲げられている。毎朝申し送り時には職員全員で唱和をし、理念の確認を行っている。利用者は人生の先輩として敬うことを常に念頭に置いている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	大垣市内の中学校や高校の体験学習を積極的に受け入れ、利用者との交流の場を設けている。近隣の保育園と定期的に交流を継続させている。氏神参拝や畑、散歩に出、地元の方達と挨拶を交わしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議の場で認知症ミニ勉強会を企画。認知症を学んで頂く機会を工夫している。推進会議以外での学習会を検討している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見交換会の場を設け、テーマにとらわれず自由に意見を述べて頂いている。本年より認知症ミニ学習会を取り入れた。来年度は地域の方を招き学習会を開催したいと思っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	大垣市地域密着型交流会の担当市職員が当グループホームの担当者でもあり、報告する機会がある。相談にも乗って頂け、大変助かっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	転倒リスクのある利用者に対し、要因となる身体状況や、環境等を職員間で話し合い、補助具の検討や服薬の軽減で拘束を行う事なく、事故を減らす事が出来た。新規利用者が増えたが、施錠の措置を取ることなく知的レクなどの提供で落ち着いて頂くことができた。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修や外部研修により、専門的な知識を持ち、虐待を見逃さない力を養っている。身体的虐待以外の言葉による虐待や介護放棄が行われていないか、職員の評価を行い、利用者の状態の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会があれば積極的に参加をしている。現在該当しそうな利用者はいないがキーパーソンの高齢化や家族関係が複雑化しており、知識の必要性を実感している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の相談があった場合、見学に来て頂き、ありのままを観て頂くことにしている。相談内容を十分に聞き取り、時間をかけ平易な言葉を意識し分かりやすく説明や、疑問に答えているつもりである。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族から聞いた言葉を「お客様声情報」として職員が投函をしている。誰でも閲覧できる場所に声情報が設置してある。推進会議で取り上げたり施設長会議に出席をさせて頂き、発信をしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の施設長会議に出席をし、職員の声を上席者に報告している。お客様声情報を通じて上席者に直接現状が伝わっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護福祉士受験のサポートを行い、資格取得をした際には報奨金が出る。公休には希望休を月3回組み込んだり、子育て世代や、妊娠をされた職員にはシフトの工夫をし働きやすい環境の提供に工夫をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修派遣を行い、新しい技術の習得を積極的に行っている。今年度から、より力を入れ内部の強化に力を入れている。外部研修を受けた者は内部研修の講師となり技術、知識の向上に勤めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各協議会の会員となっており、様々な研修や交流会の情報を得ている。ケアマネ交流会がある為、相談者の紹介など他事業者との関係は良好である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の面談において、否定的な言葉は使わず、同調、傾きしながら、話しやすい雰囲気を作り、家族やご本人が思っている事をにべて頂いたり、察しさせていただいている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族のプライバシーに配慮をし、突っ込んだ質問は避けている。平易な言葉を選び、解りやすく説明をしたり答えているつもりである。相談者の家族が特別でない事を織り交ぜると安心される。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所に至った経緯をじっくり聞き出し、直接的な質問は避け、同調、傾聴をしながら支援方法を模索している。介護保険制度の説明や在宅介護が可能な事などホーム入居以外の支援についてアドバイスをさせて頂くことが多い。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者さんとのコミュニケーションを大切にしている。言葉使いには気をつけ、安心して会話を楽しんで頂けるよう時には居室で会話をしたり散歩をしながら話を伺ったりしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会者はこちらの要請ではなく、自発的に来て下さる。毎月利用情報を手紙形式で出させて頂き、友好的な関係を作っている。時にはご家族に利用者との外出を促させていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出レクは、馴染みの場所を意識している。馴染みの方が面会時、ご本人と上手く会話ができない場合は、他利用者や職員とで会話をするなど工夫をし、再度面会に来て頂けるようにしている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の状態や、性格など考慮をし席の工夫を行っている。利用者同志の交流が見られたり、食事が全介助に近かった方が同席者の摂取状態を見られてほぼ自力摂取になった方がみえる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	死亡されてもまだホームにいる気がするといわれて訪問して下さるご家族が見える。職員に手作り品を持ってきて下さる。介護についてご相談があった場合は来ていただいたり、ご自宅に訪問させて頂くこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	口に出してうまく伝えることができない方には毎日の申し送り等からアセスメントシートに記入をするなどして真のニーズを引き出すよう工夫をしている。コミュニケーションを大切に、なるべく多くの声を聞き出すようにしている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人はもちろんだが、ご家族等ご本人をよく知る方に質問の工夫をさせて頂き過去歴や、昔話をしながらご本人の生活歴を把握するように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	知的レクや、体操などを通してご本人の有する力の把握に努め、計算問題や書き取り、塗り絵、本などを提供させて頂いている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	心配事があった場合報告させて頂いたり、面会時に相談させて頂いている。職員と本人家族でご意向を伺いながら、今後の支援方法についてお話をさせて頂いている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	センター方式のアセスメントシートを活用しながら利用者の真のニーズを検討している。全職員が共有できるよう申し送り帳や申し送りをこまめに行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	突然の体調変化ではいち早く受診を行ったり、ご家族の慶事やご不幸に際しては、柔軟に対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の情報を広報誌や地域住民の方々から得て豊かな時間が持てるよう気にかけている。地元の祭りや近くのショッピングセンター、喫茶店を利用させていただいている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医はあるがかかりつけ医への強制はしていない。馴染みの病院で納得の治療をして頂いている。受診付添を行ない、主治医から医療の指示を受けている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化や不安に思っている事を医療連携ノートに記入をし、指示やアドバイスを受けている。看護師とは良好な関係の為、介護職員は安心して仕事ができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院に情報提供を行い、家族の同意を得て病状の説明を受けている。入院は家族には負担となることが多く、早期退院を望まれる。医師の指示、指導のもと、早期退院となっている。総合病院の相談室からの問い合わせが多く、関係は継続させている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の時点で看取りを希望される家族が増えてきた。本年度も4名の方の看取りを行った。主治医、家族、ホーム職員の連結が大切であることを痛感している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡先は事務所や各フロアに掲示している。急変時の対応については、ケアサポート部の看護師部会より指導を受けており、大変心強い		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練で、消防士の指導を受け避難訓練を行っている。非常時の対応をカンファレンスの場で確認している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛への配慮を指導している。無意識のうちに不適切な発言がみられた場合は注意をし啓蒙を促している。排泄時は直接的な言葉を避けトイレにお連れしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	洋服選びや外出先の決定などに利用者の声を聞くようにしている。声掛では問いかけの形に工夫をさせて頂き、ご本人の意思、希望を引き出す工夫をしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事を急かしたり、入浴を強制することは避けている。歩行が不安定で、歩行を希望されている方に杖を渡したところ、腰が伸び、以前より歩行が安定してきた		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服に拘りを持つ方がおられ変えようとなれない方がおられるが、その意味を理解し、無理強いはいしない。ほめことばで笑顔になる方が多い。ご本人を尊重しつつ季節感を大切にしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きや、盛り付けなど利用者さんと共に行っている。配膳に使用したボールを洗うのも利用者さんの仕事になっている。席の工夫で自力摂取ができるようになった方が見える。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の記録を毎回取っている。水分は食事時は勿論だが起床時や食間に確保をしている。ご飯は水分がやや多めの為無理なく、摂取ができています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自立の方には声掛けをし、自立困難な方には介助をしている。自立の方も時々チェックをしブラッシングの手伝いをし、口腔内衛生には気を配っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	昼間は紙パンツを使用し、トイレで排泄をさせている。チェックシートを参考にし、定期的に声掛け、誘導を行い、パット使用を減らす工夫をしている。また、夜間帯はポータブル介助を行い、パット使用が減った方も見える。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	立位や歩行の促しで腸の動きを少しでも良くして頂き、自然排便を工夫している。また、起床時に冷水を飲んで頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	長湯が好みの方には、急かすことは避けている。曜日に拘らず入浴日以外でも入って頂いている。拒否の方にはアセスメントをし、でその原因を探り出している。全身清拭や足湯なども行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時、ゆったりと会話を交わしながら休んで頂いている。2時間ごとの巡視は安眠を損なわないよう、其の方に合わせて確認をさせて頂いている。日中は、その方に合わせて居室で静養して頂いている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の効果については職員は実感を持っている。普段から看護師の指導を受け、慎重に介助を行っている。利用者に変化があった場合はすぐに主治医に連絡をし指示、指導を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者から直接伺ったり、家族から情報を得たりしながら、その方にあった趣味や仕事分担を工夫している。学習療法や読書、園芸、散歩などを提供している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月外出計画を立て季節の花見や行事見学に出ている。喫茶店や外食にも出かけ、毎回楽しみにされている。また、利用者の実家まで墓参りやひ孫の宮参りに連れて行って下さる家族もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自身で小金を持って見える方が見える。安心されるため、あえて施設で預かることはしていない。が、殆どの方はあずからせていただいております、買い物支援時に、自ら支払いをされる方が見える		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いはがきを書いていた。手紙を家族あてに書かれる方もみえる。遠方のご家族から連絡があった場合は電話に出て頂くこともある		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	柔らかな照明を使用しており、明るすぎず落ち着いた空間になっている。動物や、演歌ビデオのを流しており、会話の少ない方も見入られている。皆様の日常写真や季節の作品を掲示し、季節を出している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにはソファを置き一人になりたい方はゆったりと一人で過ごされている。ユニット間には仕切りを設けず自由に往来をしていただき、気持ちの切り替えをされる利用者も見える		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は自由に使っていただいております、ご家族が写真やぬいぐるみを持参され、面会時にはゆったりと過ごされている。「私のうちへようこそ」と面会者を居室へ案内される方も見える		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面所やトイレがわかるようにしている。ゴミ箱は数か所に置くことで、利用者自身がごみ処理をされている		